

令和6(2024)年度 栃木県浙江省友好交流員レポート(1月分)

栃木県浙江省友好交流員 加藤 かれん

時の流れは速いもので、今回が最後のレポートとなります。友好交流員としての生活を顧みしました。多くの場所に訪れ、たくさんの出会いがあり、数々のことに挑戦し、折々に助けられた半年間でした。1月2日、3日には期末テストがあり、日本の年末年始とは違う雰囲気を迎えた年越しでしたが、テスト終了後はクラスメイトや中国人の友達と最後の思い出を作り、とても充実した一か月間でした。

🍷 浙江大学での全ての授業、期末テストを終えて

テスト内容は12月のレポートにある科目と同じで、私たちのクラスは文法とリスニングとスピーキングの3教科であった。学期末テストともなると緊張したが、今までに習った内容をよく復習して臨んだ。最終的な点数は中間テスト、期末テスト、授業への出席率から決まる。中でも出席率は一番重視される。個人的には100点満点中全ての教科が90点を上回っていたので心から安堵した。

🌊 海が綺麗な寧波(ねいは)、舟山(ふなやま)へ

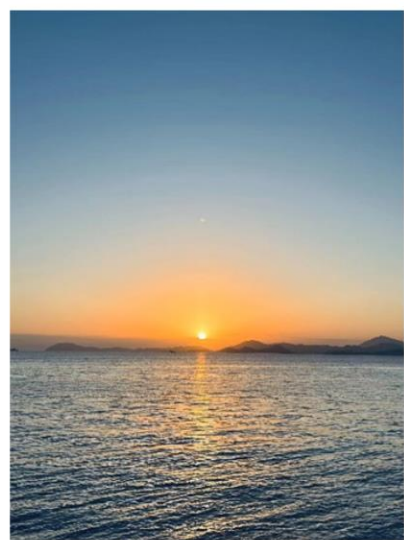
寧波は、浙江省の東部沿岸にあり、東シナ海に面している。海鮮が美味しいことで有名。水槽に入った数々の海鮮から目の前で調理してくれるこの海鮮麺は絶品であった。舟山市は浙江省の群島都市。島の一つに普陀山(ふださん)と言われる中国四大仏教名山の一つがあり、1080年(北宋時代)に建立された。多くの現地人が拝観に来ていた。

← 普陀山まで行くフェリー



境内は神聖な場所なので撮影禁止エリアも存在する。南海観音像と呼ばれるこの観音菩薩像は高さ33メートルで、普陀山のシンボリックな存在だ。

普陀山は仏教遺跡だけではなく、美しい自然も楽しめる。島全体が青い海に囲まれているので、リゾート地のような雰囲気がある。別荘を持つ人もいる。参拝した帰りに、砂浜を散歩した。



←舟山に向かう前に寧波の朝日を見に行った。この日は一月一日の元旦で、今年も良い一年になるようにと初日の出を拝んだ。



舟山から杭州東までは長距離バスが運行しており、とても快適に帰ることが出来た。所要時間は3.5～4時間程度。

中国を代表するIT企業アリババをスタッフの方直々に案内して頂いた



アリババは浙江省にあり、中国の物流、電子商取引、電子決済、エンターテインメント等々を支える中国を代表する大手IT企業である。私のような留学生に馴染みある代表的なものには、アリペイやタオバオなどがある。アリペイとは電子決済サービスのことで、中国では現金を持ち歩く習慣が無く、全てこのアリペイのようなサービスを通して決済を行える。交通ICの機能も付いていて、バスや地下鉄を利用することも可能。さらに、アリペイは国際クレジットカードに連携することもできる。

また、アリババ傘下の地図サービスで高德地図というGoogleマップの中国版のようなアプリが存在する。特に驚いたことは、タクシーに乗りたいときにこの地図アプリで行き先を設定するとすぐに呼ぶことが出来、決済もアリペイと連携しているので簡単に行える。更に呼んだタクシーの現在地が分かったり、赤信号があと何秒で変わるかなども画面上に表示される。

買い物をする際には、安価で購入することができるタオバオというオンラインショップをよく



利用した。タオバオでオンラインショッピングをした際、左の画像のように現在どこまで商品が配送されているのかが表示されて安心。大体のものは送料無料で、最短一日と迅速に配送される。自分たちの宿舎の前には郵便局があり、商品が届くとそこに保管されるので、個人と商品のバーコードを照らし合わせて受けとる。その商品管理もアリババ傘下の物流会社、菜鳥が行っている。菜鳥は自動運転車を使った配送サービスも行う。アリババのオンラインマーケットは中国国内だけではなく、世界中にユーザーがいる。国外で有名なものの一つに、アリエクスプレスがある。

その他に、アリババでは子供の誘拐や人身売買問題に対する技術支援を行っていて警察が行方不明児童の情報を入力すると、子供の近くにいるユーザーに即座に通知が届く。これまでに98%以上の子供が見つかっている。

アリババが中国全体の経済や利便さを担っていて、且つ商業目的だけではなく社会的課題の解決へも貢献していることがとても印象的であった。国民を支える技術の発展を目にして非常に感銘を受けた。私自身、貴重品が入った小さな鞆を街で落としてしまった事があり警察署に行った時に、顔写真を撮影して、AI技術を活用し街に設置されている監視カメラの映像解析をして貰った経験がある。その鞆はすぐに見つかり、手元に無事に戻ってきた。ITと聞くと難しく感じるが、実はとても身近で安全、安心、便利な生活を送るために欠かせないものなのであると理解を深めることができた。

🧨春節(旧正月)を北京で

中国のお正月、春節を兄夫婦が住む北京で数日過ごした。

2025年の休暇日は1月28日～2月4日で、外出する人よりも帰

省して家族と過ごす人が多いため街中は静けさに包まれる。杭州から北京までのアクセスは飛行機か高鉄(新幹線)で、高鉄を選んだ。片道6時間で、金額は600～645元(1万～1万3千円)程度。約1300km距離があるので、日本だと青森から広島、岡山辺りに到達することになる。北京の冬は杭州と比べると乾燥してとても寒く、マイナス10度に到達する日も少なくないとのこと。

←CBDエリア(中央ビジネス地区)はとても煌びやか



紅白歌合戦の中国版を大晦日に観た→

←家族で包んだ餃子

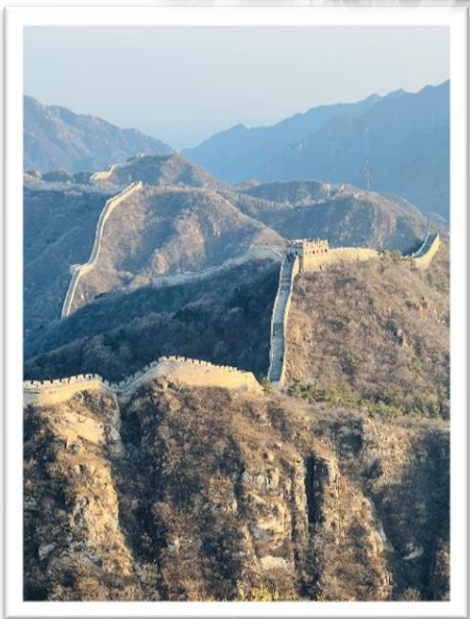
中国式と日本式(私が包んだもの)の包み方に特徴が見て取れて面白い。
火鍋に入れて頂いた。家族で包んだ餃子はとても美味しかった。



「福」という字をわざと逆さに貼る→
逆さまにする「倒福」と「到福」(福が来ること)を掛け合わせている。中国の家庭にはこの赤い对联(ついでん)と呼ばれる赤い紙が貼られている所が多い。
義姉の父が書いた見事な对联を兄夫婦宅の玄関に貼った。



←秦の時代に建てられた万里の長城。
壮大な景色と急な坂が果てしなく続く。夏は身動きができなくなるほどの観光客で溢れかえるとのこと。



名物の北京ダックは外がパリパリで中はとてもジューシー。薄餅(薄く焼いた小麦粉の皮)に包んで頂く→



北京栃木県人会の方々とお食事を頂きました。
お忙しい中とても素晴らしい機会を与えて頂いたことに心より感謝申し上げます。
春节快乐! 日中友好!

←家族で撮影した(義姉、私、兄)



🐼 友好交流員としての活動を終えて

あっという間に終わってしまった半年間でした。そして正直なところ、日本に帰国するのが名残惜しいという感情が胸の奥に広がります。

この留学期間を通して私は中国という国を自ら、より近く感じる事が出来ました。また、栃木県をはじめ日本にいる方々に中国の魅力を沢山伝えたいと思うようになりました。広い中国にある未来感溢れる都市、自然、歴史、全てを心身に感じ、その多様性ある魅力を共有することが出来たと思います。更に現地人と話すとても素敵な人柄を持った方が多いことから、語学にもっと精進し更に多くの方とコミュニケーションを取れるようになることが日々の目標となり、モチベーションとなりました。中国の魅力を発掘していくには半年間では少ないとも思いましたが、私自身が経験したことを通してその魅力を感じ、興味を持ってくれる方が一人でもいたらとても嬉しく思います。

また、浙江大学で勉強できたことでとても意義ある日々となりました。日本人同士でのコミュニティでも、大学生から社会人まで様々な年齢層の留学生がいましたが、それぞれの背景から目標に向かって頑張っている仲間たちと話をすることで良い刺激を貰いました。個々の道を再び歩むこととなりますが、またどこかで会えたらという期待と、とても寂しい気持ちでいっぱいです。

私は自身の経験を以って、社会生活に活かし、今後も中国の溢れる魅力を伝えられるような活動をできる機会があればと思っています。日本と中国の友好を心から祈り、これにて最後にしたいと思います。

谢谢大家，再见！

